

スペイン皇太子賞に「フクシマの英雄」

原発事故現場で献身的な働き

2011/9/8付 | 日本経済新聞 電子版

【パリ=共同】スペインのアストゥリアス皇太子基金は7日、今年の同皇太子賞の「共存共栄賞」を福島第1原発事故の現場で、事故の拡大を防ぐため献身的な働きをした東京電力やその下請け作業員、消防、自衛隊員らの「フクシマの英雄たち」に授与すると発表した。

同基金は授賞理由を「勇敢で模範的な行為」とし「自らの命を犠牲にしても津波による原発の惨禍を避けようと闘った。彼らは人間としての卓越した価値を示してくれた」と評価。

「彼らのなしたことは、日本社会に根付く義務感、逆境での品位、謙虚さ、寛容、勇気のたまものだ」と称揚した。

「共存共栄賞」には8つの個人・団体がノミネートされていた。授賞式は10月21日、スペインのオビエドで王妃や皇太子らが参加して行われる。賞金は5万ユーロ（約540万円）。

同基金は、人類の発展への貢献をたたえ、毎年多くの部門で賞を授与しており、今年は芸術部門でイタリアの指揮者リッカルド・ムーティ氏、スポーツ部門ではエチオピアのマラソン選手ハイレ・ゲブレシラシエ氏が選ばれている。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

